

■ 株式会社のご案内 (株主メモ)

事業年度	毎年 4 月 1 日から翌年 3 月 31 日まで
配当金交付 株主確定日	3 月 31 日 ※なお、中間配当の株主確定日は 9 月 30 日
単元株式数	1,000 株
定時株主総会	6 月下旬
定時株主総会における 権利行使株主確定日	3 月 31 日
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲 1-2-1 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都中央区八重洲 1-2-1 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部

	証券会社等に口座をお持ちの場合	証券会社等に口座をお持ちでない場合 (特別口座の場合)
郵便物送付先		〒168-8507 東京都杉並区和泉 2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部
電話お問い合わせ先		フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く 9:00～17:00)
各種手続取扱店 (住所変更、株主配当金受取り 方法の変更等)	お取引の証券会社等になります。	みずほ証券 本店、全国各支店 プラネットブース (みずほ銀行内の店舗) みずほ信託銀行 本店および全国各支店
未払配当金のお支払	みずほ信託銀行本店および全国各支店、みずほ銀行の本店および全国各支店 (みずほ証券では取次のみとなります)	
ご注意	支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問い合わせ先・各種手続きお取扱店をご利用ください。	単元未満株式の買取以外の株式売買はできません。

公告方法	電子公告の方法により行う http://www.kinugawa-rubber.co.jp
------	--

 **Kinugawa Rubber Industrial Co., Ltd.**

〒263-0005 千葉県稲毛区長沼町330番地 TEL: 043-259-3111 (代表) FAX: 043-259-3380

URL : <http://www.kinugawa-rubber.co.jp/>

スピード・変革・チャレンジ

第 74 期

株主通信

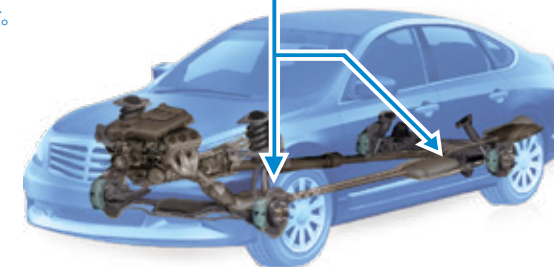
2012 年 4 月 1 日 ~
2013 年 3 月 31 日



エキゾーストマウント

用途：車のエンジンから排気口までの排気管を支える部品です。

機能：走行時、路面からの振動を吸収し排気管を守ります。



私たちのいまをお届けします

知れば知るほど



経営企画室社員
鬼怒川 きぬこ

鬼怒川ゴムの強み・特長は？

- **日本を代表する** 自動車用ゴム・樹脂部品メーカー
- **グローバル** での需要拡大を受け積極的な海外進出

お客様の満足度向上を第一に、技術力とモノ造り力を活かしながら積極的な販路拡大を目指す



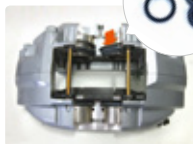
ホース



バンパー



エンジンマウント ブッシュ



ブレーキカップ



ペダル



ウェルトボディーサイド



ガラスラン

【自動車製品紹介】



つまり顧客ニーズにいち早く対応し、ビジネスチャンスを見逃しません。

製品技術の革新だけでなく、大量生産への対応や、徹底した現地化、開発リードタイムの短縮等を実施し、最大限に売上拡大を図ります。

海外拠点を拡張中

インド・ロシア・ブラジルの新規地域における受注見込みと、米州・中国・タイは拠点を増強し、販路拡大を図っていきます。



中期経営計画「Kinugawa Challenge 2015」

海外での売上拡大で、2015年度目標

1,000億円以上!

3つの構造改革プラス1

- ① 短期収益を上げる～モノ造りの継続した改革
- ② 売上を拡大「持続的な成長」
- ③ 業務改革による収益体質の強化



④ **グローバルに展開**

新興国を中心にグローバルで需要は拡大しています!



幅広いネットワークの国内拠点

鬼怒川グループは千葉県を中心に、北関東（埼玉県、栃木県）、南東北（福島県）、中国地方（山口県）、九州地方（大分県）と幅広いネットワークでお客様への対応をしています。

生産委託会社

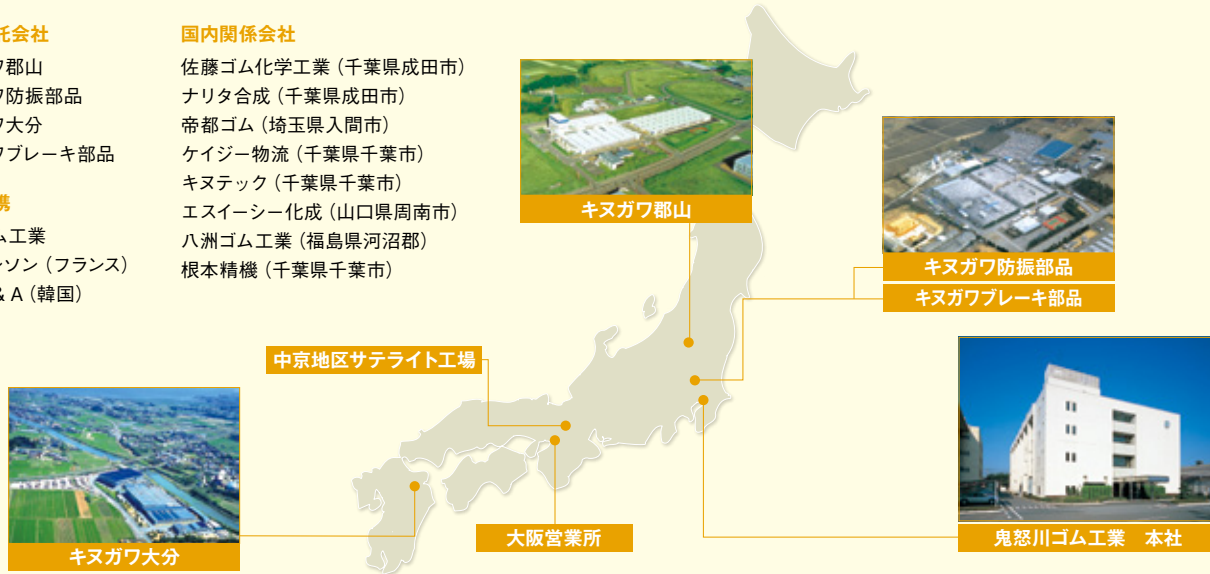
キヌガワ郡山
キヌガワ防振部品
キヌガワ大分
キヌガワブレーキ部品

国内関係会社

佐藤ゴム化学工業（千葉県成田市）
ナリタ合成（千葉県成田市）
帝都ゴム（埼玉県入間市）
ケイジー物流（千葉県千葉市）
キヌテック（千葉県千葉市）
エスイーシー化成（山口県周南市）
八洲ゴム工業（福島県河沼郡）
根本精機（千葉県千葉市）

業務提携

東洋ゴム工業
ハッチンソン（フランス）
和承R&A（韓国）



株主のみなさまへ



代表取締役社長執行役員
関山定男

株主のみなさまにおかれましては、日頃より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。さて、第74期株主通信をお届けいたします。

2013年3月期当社グループ連結業績は、昨年の低燃費車補助金制度変更の反動や昨年後半から中国での日本車生産台数の急激な減産により売上が減少いたしました。また米州、アセアンでの新車立上げと生産部品の移管が同時期に重なった結果、一時的に費用が増加いたしました。

現在は、中国の生産台数も減産以前まで回復し今後も更に生産台数は増加の傾向にあります。また、米州、アセアンで発生した費用も迅速な支援により早期に回復してきており、13年度は増収増益に転ずる見込みでございます。

一昨年度発表しました中期経営計画「Kinugawa Challenge 2015」を軸とした、2015年度売上高1,000億円超、営業利益率12%確保を目標に、今後も世界の自動車メーカーへの販売強化とグローバル拠点戦略を展開し、自動車産業の発展にお役に立てるようグループ一丸となって取り組んでいく所存です。

株主のみなさまにおかれましては、今後とも一層のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

現場のアイデアが高いROEを実現 鬼怒川ゴムの「小回り経営」

グループ会社キヌガワ郡山の工場では、生産品目を切り替える際、ラインの金具を交換する必要が生じます。合図ですぐに3〜4人が集まりあつという間に金具の交換作業を終える光景は、まるでF1レースのピットさながら。他にも、9割以上の従業員を3つのラインで作業できるよう訓練したり、工場内に無人搬送機を手作りするなど作業効率を高める工夫を随所に取り入れています。

現場の工夫

作業時間短縮
作業効率向上

利益率や
資本効率をUP↑

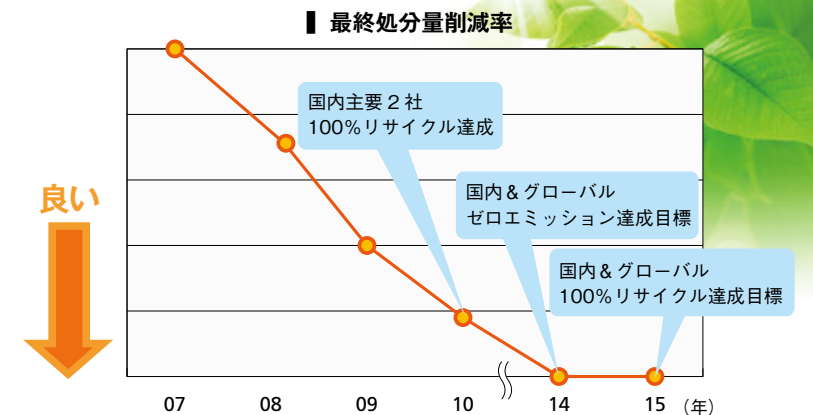
現場の工夫が利益率アップに貢献しています！



環境への取組み

1990年代から他社に先駆けてゴムから樹脂へ転換を推進しリサイクルを促進しています。また、処分量の削減には、サーマルリサイクルを活用しています。

*サーマルリサイクル：廃棄物を燃料として再利用



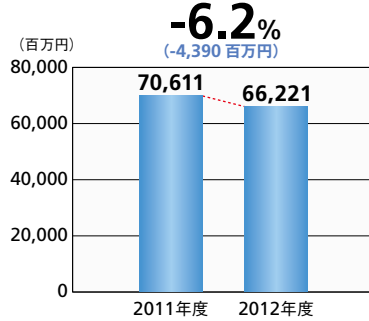
業績の概要

当社の主要得意先の自動車生産は、国内は前年同期比で約1割減少、海外は中国での販売減少により海外全体では微増、グローバルでは前年同期並みとなりました。この結果、売上高は、662億2千1百万円（前年同期比6.2%減）となりました。損益面は、調達資材のLCC化・汎用化及びアジアでのモノ作り改善活動などを継続したものの、

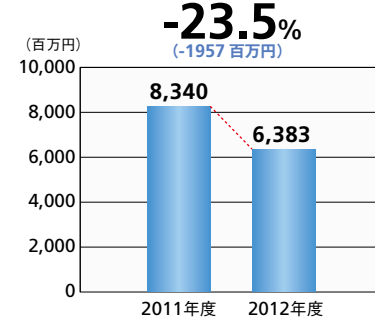
製品構成の変化、輸出向け部品の減少、新車立ち上げコストや部品輸送コスト増などの影響がありました。結果、営業利益は63億8千3百万円（前年同期比23.5%減）、経常利益は70億4千6百万円（前年同期比17.6%減）、当期純利益は39億7千5百万円（前年同期比25.0%減）となりました。

【損益計算書】

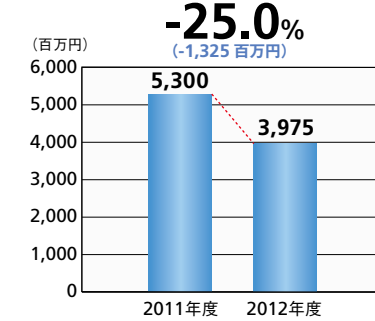
売上高



営業利益

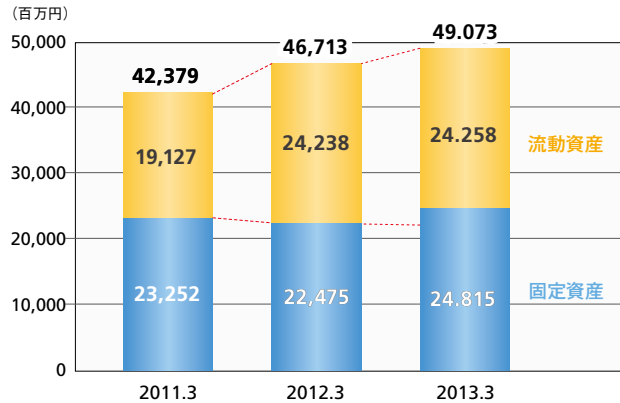


当期純利益

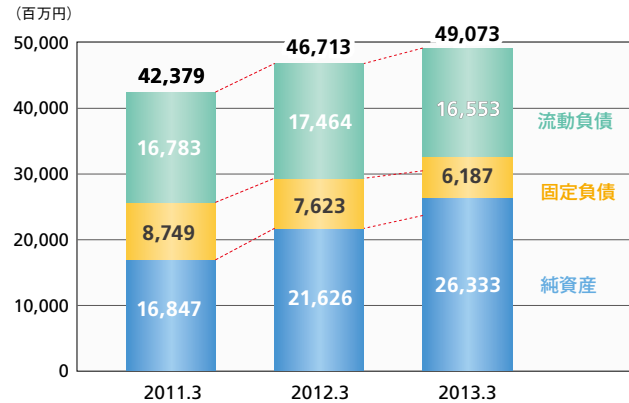


貸借対照表

資産の部

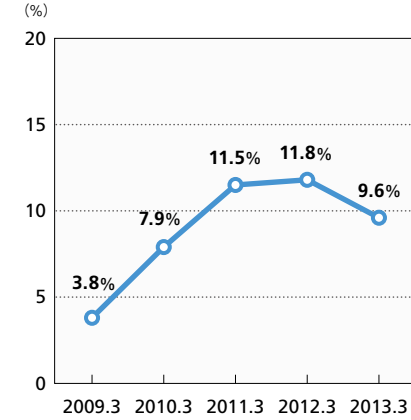


負債・純資産の部

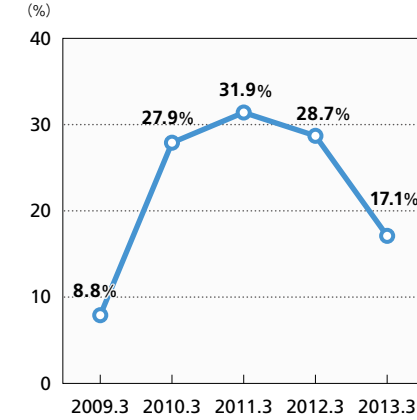


主要経営指標の推移

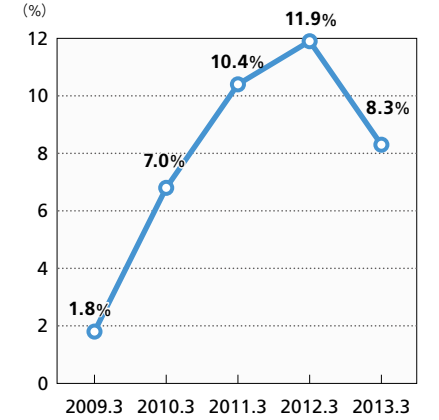
●営業利益率



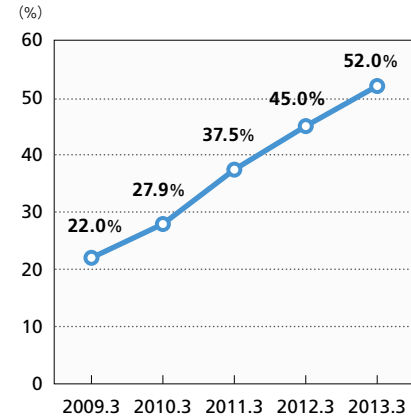
●ROE



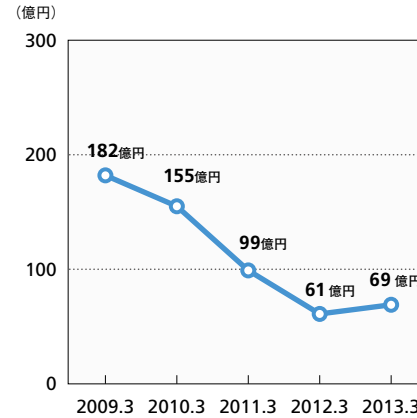
●ROA



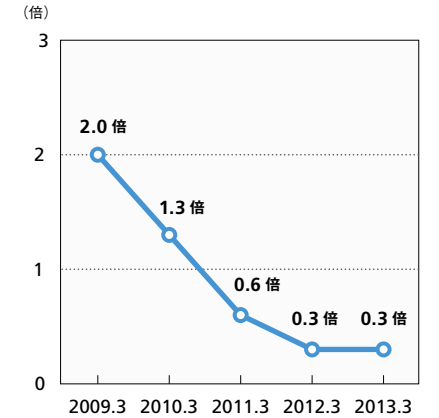
●自己資本比率



●有利子負債残高



●DER



注) 2012年3月期連結会計年度より、在外子会社等の収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算する方法に会計方針を変更しております。
(これにより本書における過年度の数値も期中平均相場を適用)

トピックス

IR活動 ～個人投資家の皆さま向け決算説明会の開催

12月2日と6日の両日に、個人投資家の皆さまと機関投資家の皆さまを対象に2012年度第2四半期決算説明会を開催いたしました。当日は115名(12月2日)、60名(12月6日)の投資家の皆さまが参加されました。



2013年度鬼怒川ゴムグループ方針説明会を開催しました

13年2月、弊社より、12年度の主な取組みや13年度の経営方針、地域戦略、構造改革について発表しました。方針説明会は、例年4月に開催していましたが、お取引先に鬼怒川ゴムグループの方針をいち早くお伝えする事で、諸活動のスピードアップを図る為に2月に開催しました。



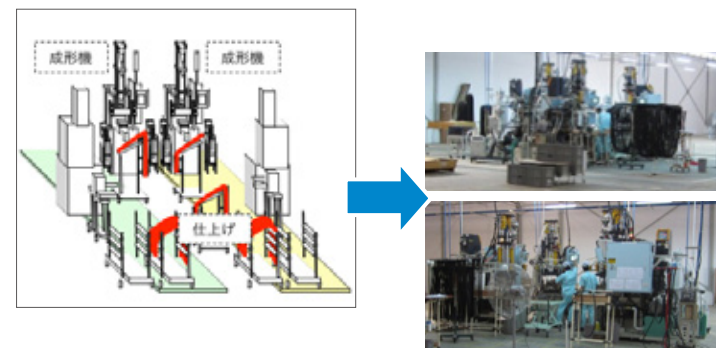
インド"キヌガワインド"設立

12月新拠点"KINUGAWA RUBBER INDIA"(インド チェンナイ)に海外12番目の生産拠点を設立しました。インドは中国に並ぶ巨大市場であり、韓国の和承社と提携し13年度から操業を開始します。主に日系カーメーカーを中心に車体シール部品とホース部品を供給します。



拠点を立上げ～モデルラインの転写

世界中どこでも、同じ品質、同じ生産性でモノが造れるように日本のモデルラインで量産開始前から現地スタッフを教育し生産ラインとしてそのまま拠点到転写します。



中国5番目の生産拠点 "鬼怒川鄭州" 設立

1月中国5番目の生産拠点になる鄭州に会社を設立しました。13年に操業を開始し車体シール部品と防振部品を生産します。日系メーカーをはじめ、中国カーメーカーに部品を供給します。



みえる化 ～稼動状況を集中モニターで監視

設備の稼動状況を集中監視できるモニターを設置(みえる化)し、設備が停止してもすぐに対応可能となり、設備停止時間を大幅に削減することができました。



沿革

1939 (昭和14)	鬼怒川護謨工業株式会社創立 (自動車部品その他ゴム製品の製造)
1961 (昭和36)	鬼怒川ゴム工業株式会社に商号変更
1962 (昭和37)	東京証券取引所市場第二部に上場
1964 (昭和39)	本社所在地を千葉市に変更
1971 (昭和46)	栃木県真岡市に工場建設(現(株)キヌガワ防振部品、(株)キヌガワブレーキ部品) 台湾台北市に 「中光橡膠工業股份有限公司(中光ゴム)」設立
1977 (昭和52)	大分県中津市に工場建設(現(株)キヌガワ大分)
1978 (昭和53)	東京証券取引所市場第一部上場
1985 (昭和60)	アメリカ テネシー州ウインチェスター市に 「現地法人(現TEPRO)」設立
1992 (平成4)	福島県郡山市に工場建設(現(株)キヌガワ郡山)
1994 (平成6)	中国天津市に合弁会社 「天津星光橡塑有限公司(天津星光)」設立
1996 (平成8)	中国福州市に 「福州福光橡塑有限公司(福州福光)」設立
1999 (平成11)	東洋ゴム工業株式会社と資本・業務提携
2001 (平成13)	タイ アユタヤ県に「キヌガワタイランド社」設立 工場部門を分社化
2004 (平成16)	エスイーシー化成株式会社設立
2005 (平成17)	八洲ゴム工業株式会社の経営権取得
2006 (平成18)	福州福光橡塑の花都分工場を独立させ 「鬼怒川橡塑(広州)有限公司」を設立
2007 (平成19)	タイ CPR社を子会社化
2010 (平成22)	メキシコ グァナファト州 イラパト市に 「キヌガワ メキシコ」設立 中国 大連市に 「鬼怒川(大連) 模具開発有限公司」設立 中国安徽省蕪湖市に 「鬼怒川橡塑(蕪湖) 有限公司」設立
2011 (平成23)	帝都ゴム株式会社を完全子会社化
2012 (平成24)	インドネシア 西ジャワ州に 「キヌガワ インドネシア」設立 中国 河南省に 「鬼怒川橡塑(鄭州) 有限公司」設立 インド チェンナイ市に「キヌガワ インド」設立

会社概要

2013年3月31日現在

名称	鬼怒川ゴム工業株式会社 Kinugawa Rubber Industrial Co., Ltd.
証券コード	5196
本社所在地	千葉県千葉市稲毛区長沼町 330 番地 TEL: 043-259-3111
設立年月日	1939年10月1日
資本金	5,654百万円
主要な事業内容	自動車用ゴム及び合成樹脂製品の製造・販売
従業員数(連結)	3,749名
営業所	大阪営業所 大阪府吹田市南金田 2-3-26 ファースト21 803号 TEL: 06-6155-4599

役員体制

役職名	氏名
代表取締役社長執行役員	せきやま きだ お 関山 定男
取締役常務執行役員	よだ のり お 依田 憲雄
取締役常務執行役員	いまばやし いさお 今林 功
取締役常務執行役員	こぐすり じろう 小薬 次郎
監査役	すえまつ けん 末松 謙
監査役(非常勤)	おおき あきら 大木 宣
監査役(非常勤)	やまもと まさひこ 山本 正彦
監査役(非常勤)	みね なおひと 峯 直仁

株式の状況

2013年3月31日現在

発行可能株式総数	160,000,000株
発行済株式総数	67,299,522株(自己株式66,252株)
株主数	6,012名

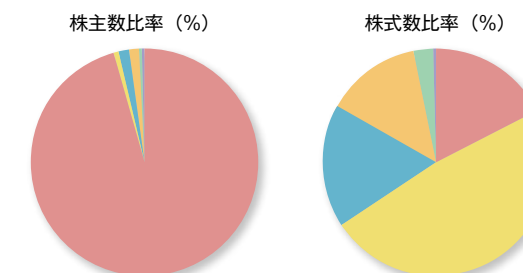
大株主

No	株主名	所有株数	比率
1	みずほ信託銀行株式会社(退職給付信託日産自動車口)	13,626,665	20.27
2	東洋ゴム工業株式会社	8,000,000	11.90
3	日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	5,896,000	8.77
4	GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL	2,268,000	3.37
5	日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,939,000	2.88
6	日本生命保険相互会社	1,793,400	2.67
7	株式会社みずほコーポレート銀行	1,336,964	1.99
8	株式会社損害保険ジャパン	873,680	1.30
9	株式会社りそな銀行	815,000	1.21
10	株式会社常陽銀行	737,000	1.10

(注) 比率は自己株式66,252株を控除して計算しております。

所有者別分布状況・所有株数別分布状況

所有者区分	株主数比率(%)	株式数比率(%)
個人・その他	95.14	20.05
金融機関	0.63	48.94
その他国内法人	1.53	16.03
外国人	1.93	12.22
証券会社	0.75	2.66
自己名義株式	0.02	0.10



	2009.3	2010.3	2011.3	2012.3	2013.3	2014.3(予)
当期純利益(百万円)	816	2,977	4,467	5,300	3,975	4,200
1株当り当期純利益(円)	12.15	44.35	66.56	79.16	59.13	62.47
1株当り配当金(円)	3	4	5	6	8(中間配当4含む)	8